

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月4日
札幌市立栄南中学校

1 学校教育目標

常に、よりよきものを 自ら生み出そうとする生徒

- ◎真理を求め、新しい文化を創造する生徒
- ◎人間・自然を大切にし、情操を豊かにする生徒
- ◎健康でたくましい身体と、強じんな意思をもつ生徒

2 学校経営の基本方針

生徒が楽しく通い、主体的に学ぶ学校を目指し、教育活動を推進する。

- 「常に、よりよきものを自ら生み出そうとする生徒」を育成するため…
(保護者・地域と連携して)
⇒失敗を恐れずに、安心して様々なことに挑戦できる環境づくり
⇒自己肯定感を高め、多様な価値観を理解し認め合う環境づくり
- そのためには、
⇒「生徒が自ら主体的に学ぶ」授業づくり

3 重点推進目標

生徒が楽しく通い、主体的に学ぶ学校を目指し、教育活動を推進する。

- (1) 教職員相互の協力体制を基盤とする学校運営
- (2) 一人一人を大切にされた教育活動の推進
- (3) コミュニティ・スクールの実施
- (4) 評価の参考とする指標
 - ①学校評価アンケートから (生徒対象)
 - ②札幌市による共通アンケートから (生徒対象)
 - ③全国学力学習状況調査から (生徒対象)

4 自己評価結果に対する学校関係者評価

※自己評価結果：A…「概ね達成できた」 B…「一部改善が必要」 C…「改善が必要」

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	生徒が「楽しく通い、主体的に学ぶ」学校を目指し、教育活動を推進できたか。	A	本校生徒における行事の意義を教職員で再確認し、一人一人の個性を尊重し、支え合い高め合う集団作りを推進していく。	A	A
	生徒一人一人の自己肯定感を高め、「自分は大切にされている」と実感できる学校となっているか。	A	生徒が自分の成長を実感し、互いを認めあえる機会を増やすことで、自己肯定感をより一層高められる学校づくりを引き続き進めていく。	A	A
	生徒が、失敗を恐れずに安心して様々なことに挑戦できる環境を整えることができたか。	A	生徒が自らの挑戦や成長をより実感できるような指導場面を意図的に増やすことで、挑戦を当たり前とする文化の一層の定着を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	生徒の様子や聞こえてくる話を聞く限り、先生方が一人一人の生徒を大切に、支えている姿が想像できる。ぜひとも今後もその教育を継続させてほしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務・研修	「生徒が自ら主体的に学ぶ力」を身に付けるよう、授業を工夫することができたか。	A	生徒が自らの学びの変化を自覚できる振り返りの仕組みを強化し、学習方法や活動の選択場面を意図的に増やすなどして、主体的な学びを可視化していく。	A	A
	生徒一人一人が生き方や将来について考え、必要な資質や能力を身に付けられるよう取組を行うことができたか。	A	地域資源を積極的に活用したキャリア教育を行い、生徒一人一人が主体的に将来のことを考える場面を設けていく。	A	A
	ICT環境を整備し、授業等で積極的に活用することができたか。	A	生徒がより自立的にICTを使いこなし、学びを深めることができるような活用方法を探り、授業の質をさらに向上させていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校運営協議会や地域学校協働活動など、地域の人材を有効に活用してほしい。ICTについては、より一層の研鑽をし、有効的に活用できるようにしてほしい。				
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒支援	生徒が命の大切さや社会のルールを身に付けることができるよう、適切な指導・支援を行うことができたか。	A	生命尊重の精神を涵養し、自己肯定感を高める教育活動の充実に努める。	A	A
	生徒が教職員（スクールカウンセラー等を含む）に容易に相談できる体制を確立することができたか。	A	悩みや不安は誰にでもあることを伝え、受容と共感の姿勢で寄り添い、きめ細かな相談体制を構築する。	A	A
	様々な問題行動防止のため、早期発見・早期指導を心がけ、行動することができたか。	A	徹底した情報共有と組織的な指導体制で、問題行動を未然に防ぐ。	A	A
学校関係者評価委員による意見	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的人材をこれからも有効的に活用してほしい。また、現在達成できている「相談しやすい環境」をこれからも大切にしてほしい。				
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒会	生徒にとって魅力ある学校行事にするために工夫・改善を行うことができたか。	A	生徒にとって学校行事が身近に感じられるよう、委員会活動での準備・運営・反省のサイクルを大事にしながら、今後もその活動を支援していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	小学校時代がコロナ禍にあり、交流活動ができなかった影響が計り知れない。体験できずに過ごしてきたことを理解し、支えてほしい。コミュニケーションを大切にしたい活動をより一層充実させてほしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
庶務・その他	学校の施設・設備の保全及び整備に努め、充実した教育環境を整えることができたか。	A	生徒たちが安全に充実した生活ができるように、今後も環境整備に努めていきたい。	A	A
	学校だよりや学校ホームページ等を通じて、保護者や地域への情報発信を丁寧に行うことができたか。	A	学校ホームページの随時更新と保護者メールによる迅速な情報共有を継続していく。	A	A
	「小中一貫した教育」の推進を図り、小学校と連携して本校の教育活動を計画・推進することができたか。	A	年2回の合同研修会での、「9年目の姿」をイメージした話し合いの成果を実際の取組としていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	校舎の温度管理が心配。令和8年度にエアコンの設置、令和9年度から運用と聞いているが少しでも早く環境が改善されることを願っている。生徒の命、生徒が気持ちよく生活するためには必要なことだと考える。				

※評価の基準について 学校評価アンケート（生徒・保護者・教師）の結果より
A：指数が2.90（肯定的回答が70%程度）以上
B：指数が2.70（肯定的回答が60%程度）以上
C：指数が2.70 未満